

ふれあいの祭典 兵庫短歌祭

神戸市勤労会館 大ホールにて



第196号

題字 出口 章 露
発行者 〒679-5322 佐用郡佐用町上石井685 安藤直彦方
兵庫県歌人クラブ
会計 〒657-0043 神戸市灘区大石東町4-3-1-305 福島妙子
振替 01110-5-6903
印刷所 ㈱ 甲 南 堂 印 刷



表彰され自作を大きな声で披露する中高生

文部科学大臣賞
稲田 政子 さん (養父市)
ジュニア部門兵庫県知事賞
矢倉 ゆう さん (園田学園高等学校二年)

ふれあいの祭典・県民文化普及事業「兵庫短歌祭」が11月12日(土)午後1時から神戸市勤労会館大ホールにて開催された。入賞者の表彰式と作品の講評の後「現代歌合せ」が行われた。

紅葉がはじまり六甲の山並みが青空に輝く神戸の街に、中高生の参加者や各結社からの多数の会員もふくめ、会場は短歌を絆として集まった人たちのさわやかな熱気に包まれた。

総合司会は中島眞喜子、野田かおり氏の二人。まず岸田泰幸神戸市市民参画局長の「短歌をはじめ芸術文化はうるおいとやすらぎ、そして活力にみちた真の豊かな生活には欠かせない」との開会の挨拶。続いて是川哲秀兵庫県



是川県芸文協理事より受賞の稲田政子氏

芸術文化協会業務執行理事が「日本の伝統文化、そして兵庫の芸術文化の振興にご協力を」と挨拶。次に安藤直彦歌人クラブ代表が「昭和31年に県歌人クラブが発足して来年は創立60周年を迎える。創立以来県各自治体にご理解いただいた芸術文化活動の環境を一層有意義なものにしたい」と述べた。

平成28年の短歌祭応募作品数は一般の部395首、ジュニアの部計38校534首。一般の部入賞者は文部科学大臣賞・稲田政子氏(養父市)など13名、入選8名、佳作18名。ジュニアの部の入賞者は兵庫県知事賞・園田学園高等学校二年矢倉ゆうさんなど16名、入選15名、佳作35名が受賞し、表彰状と副賞が授与された。ジュニアの部では中学生から高校生までの受賞者が自分の歌を詠みあげて披露、ういういしくも晴れやかな姿は場内の拍手と称賛を受けていた。

講評は一般の部を浮田伸子、高井忠明、山中洋子各氏。ジュニアの部は桂保子氏が担当。各自それぞれのいい味、味わい深い読みや的確なアドバイスに加え、時折笑いを誘う批評になごみながら、参加者は時間を忘れて熱心に聴き入



挨拶する岸田泰幸神戸市市民参画局長

っていた。

休憩の後、判者に塔短歌会主宰吉川宏志氏を迎えての「現代歌合せ」——歌の読みをめぐってが開催された。司会尾崎まゆみ氏、判者吉川宏志氏。出場者紹介小林幹也氏。朗詠山田麦氏。歌びとは楠誓英、廣庭由利子、藤本朋世、宮城十子各氏。これら四名の「方人(出詠歌人)」が左右二手にわかれ、「水」という題のお互いの歌を四番勝負で歌を読みあい競いあう「歌合せ」に加え、各自選出した塚本邦雄などの歌を評しあう「どう読むか」歌びと選出歌、判者吉川宏志氏による総評「歌の「読み」について」とすすめられ、「読み」の大切さへの理解を深めた。(詳しい内容は別記)

前田昭子副代表の閉会の辞の後、午後四時三十分終了。参加者120名。

(西橋美保)

兵庫短歌祭「歌合せ」記

來田康男

平成二十八年年度兵庫短歌祭「歌合せ」は、判司に、歌集『鳥の見しもの』で第二十一回若山牧水賞受賞、過去にも現代歌人協会賞、現代短歌評論賞など歌壇の重要な賞を多数受賞、(塔) 主宰で京都新聞歌壇選者の吉川宏志氏をお招きして行われた。

今回の題は「水」である。副題は「歌の読みをめぐって」であり、歌の読みに特化し掘り下げた内容であった。

歌びとは(アララギ派)の楠誓英氏(歌集『青昏抄』刊行、第一回現代短歌社賞受賞)、(未来)・(玲瓏)の廣庭由利子氏(歌集『ぬるく匂へる』など刊行、玲瓏賞受賞)、(潮音)の宮城十子氏(兵庫短歌賞新人賞受賞)、(砂金)



判司の吉川宏志氏と読師の尾崎まゆみ氏

の藤本朋世氏(歌集『座標』を始め歌集、歌書を多数刊行)の四名で、兵庫歌壇の若手、ベテランから選ばれた実力派の精鋭である。

読師、すなわち司会進行を務める尾崎まゆみ氏は、神戸新聞歌壇の選者でもあり、常に各歌びとや両組に配慮を見せつつ、巧みに進めていかれた。

講師、すなわち歌の朗詠は山田麦氏である。過去に兵庫短歌賞新人賞を受賞した才と感性で作品の心を捉えつつ、一音一音が極彩色の玉となって弾むような声で、作品を紹介されていた。出場者は、兵庫県歌人クラブの小林幹也副代表により明確かつ適確に紹介された。記録は來田康男が担当。

Ⅰ 歌合せ

(左)

殺戮のありし真夏の夕まぐれまなうらにあまた水脈をひく鳥
楠 誓英

(右)

耳ほどの木片ひとつただよへり夢見の果つる波うちぎはに
藤本朋世

左の歌は、殺戮は戦争によると推測されるが意味が分かりにくい、鳥は死者の魂であるなどの指摘があり、「水脈をひく鳥」は不気味である、静けさがあると読みが分かれた。読師が「まな

うら」で増幅されるものが、殺戮そのものか象徴的なものでか捉え方に違いが出る」と解説した。

右の歌は「夢見の果つる」は夢から醒めた状態で、「波うちぎは」は現実と夢の境界線を示唆する、と歌びとの評が一致し、「耳ほどの木片」が何の比喩かは不明であるが心に引つ掛かる、「ただよへり」は体が浮遊しているように死を連想させると「木片」を歌の核とした読みが多く見られた。

判司より、左の歌は、下句は眼を閉じて広がった幻想世界で美しいが、上句の「殺戮」は言葉に頼り過ぎと評された。右の歌は身を切られたような不安感があり、イメージも喚起されると評され、判定は右の歌をよしとした。

(左)

手折りこし素秋のダリア朝冷えの庭のつくばひ水鏡する
廣庭由利子

(右)

てのひらを水の面に映したり秋のはじまる朝のあかるさ
宮城十子

右の歌は、手では無く「てのひら」とした処に身体感覚がある。「てのひら」は面積が広く「秋」の美しさを自分の中に取り込もうとしているなどの読みの方で、「秋のはじまる」がやや軽い、常套的な見解が提示された。左の歌は、「素秋」は俳句の季語である、「ダリア」が効いていると指摘され、「水鏡」の表現に、水の美しさが見える、典雅である、読者への気配りが出ている

結社(グループ)	会場	内容	問い合わせ先
銀の道短歌会	生野メインホール(朝来市)	第3火曜、午後1時	079(672)2334 中島真喜子
さくら木短歌会	枚田岡会館(朝来市)	第3日曜、午後1時半	
佐用姫短歌会	西山会館(佐用町)	第2火曜、午後1時半	0790(82)3019 衣笠 邦恵
姫路水鏡歌会	姫路市民会館 指導 小畑 庸子	第3土曜、午後1時	079(232)4003 生田よしえ
香寺短歌会	姫路市香寺公民館	第2水曜、午後1時	
コスモス藍の会	姫路市民会館	第2土曜、午後1時	079(448)0895 久米川孝子
コスモス姫路	姫路市民会館	第3日曜、午後1時	079(269)0513 飯田 進

るなどの肯定的な読みが目立った。
 判司より、右の歌は、自分に引き付け詠んでいる。「あかるさは言い過ぎ」と評された。左の歌は、名詞の多用が歌を分散させた。「水鏡する」とは通常言わないが、この歌では効いており良いと評された。判定は引き分け。

(左)

船先から水平線を見てみたし米とき水に目線を合はす
 楠 豊英

(右)

嚙下する音立て排水口流れ傷を洗へる水の冷たさ
 宮城千子

左の歌は、上旬は映画『タイタニック』のシーンを想起させるが、下旬で日常へと戻り、作者の閉塞感が込められる。「水平線」は自由への憧れ、「米とき水」の米は日常食す物であり、広い世界に憧れつつも地に足を付けた作者像が見えるなどの読みが提示された。右の歌は、「嚙下」は擬人法で、「水」は血液を想起させリアリティーがある、「傷を洗へる」に人間の孤独さが出ているなどの読みが提示された一方で、擬人法が少し過剰との指摘もあった。

読師が、二首とも先に見せる物を出したが、上下を入れ替えても良かったかも知れないと指摘した。
 判司より、左の歌は、上旬「水平線」は大、下旬「水平線(炊飯器)」は小で水の多様性が感じられて面白いと評され、右の歌は「傷を洗へる水」は良いが、動詞の多用で歌が分裂した。傷を

洗った水が呑み込まれていくとしては如何と評された。判定は左の歌をよしとした。

(左)

果実酒の赤き沫みを変若水と月は細りて時ひた流る
 廣庭由利子

(右)

ふとその名わすれぬればまなざきの花ひんやりと真水のけはひ
 藤本朋世

右の歌は、「花」の名が明かされず象徴的だがイメージが伝わる、具体を廃した処に感性が立ち上がる、と共通した読みが提示され、花で無く、女性の「名」ならば面白いとの意見も出た。左の歌は、ワインを変若水若返りの水に見立て、時間の逆行を願うが、現実には時間は進行していく、情景が艶めかしい、言葉が凝縮しているなどの読みが出て、読者の想像を如何に喚起していくかの問題も指摘された。

判司より、右の歌は、名前を忘れたことよって却って花の存在感が増している、良い歌だと評された。左の歌は、万葉集の『月読の持てる変若水取り来て君に奉りて変若得しむもの』(巻十三・三二四五)をベースに、月が細って時間が去る悲しさが良く表現されていると評された。判定は右の歌をよしとした。

総評では藤本氏の『ふとその名わすれぬればまなざきの花ひんやりと真水のけはひ』が一位選ばれた。

なお、左右何れの歌が良いかは、聴衆の拍手の大きさも参考にされたが、どの歌の拍手も非常に大きく、作品の水準の高さと実力の伯仲がうかがわれた。



熱心に歌の読みを説く吉川宏志氏

II どう読むか 歌びと選出歌

焼けあとの灰のなかりあらはれし水さしひとつ藍の水さし
 太田水穂

〔宮城〕作者は(潮音)の創始者で、潮音では①象徴的に物を詠む、②「われ」のある歌、を課題とする。「焼けあと」を失われた物の象徴とすれば、大戦だけで無く現代にも通じる。「水」は、焼けても消えずに水蒸気として残り、復興の過程で象徴的に蘇って来る。

〔吉川〕「水さし」の繰り返しが効いている。「藍」の色が心に残る。「あらはれし」をどう取るかでも読みが変わるが、情景なので過去形であろう。

水面のきらめきあふれながれゆくそのみなもとの静寂おもふ
 谷井美恵子

〔藤本〕詩に対する考え方を詠んだ作品である。作者の別の作品「まのあたり

結社(グループ)	会場	内容	問い合わせ先
塔 姫 路 歌 会	城南公民館(姫路市)	第2日曜、午後1時	0791(62)3538 藤原 明朗
ポ ト ナ ム 姫 路	姫路市民会館	第3月曜	079(266)3603 糴川 範子
文 学 圏 社	姫路花の北市民広場(姫路市)	月初めの午後	078(961)5676 浮田 伸子
糸 ち う ど 揖 西 歌 会	揖西公民館(たつの市)	第4金曜	079(236)6806 上田 一成
「白 圭」龍 野 歌 会	たつの市生きがいセンター	第4月曜、午前10時	0791(63)4734 内海 永子
赤 穂 短 歌 の 会	赤穂市民会館	第4土曜、午後1時半	0791(48)0137 尼子 勝義
白 珠	滝野公民館(加東市)	第2水曜、午前	0795(48)3679 片山 洋子



(左) 歌びと 宮城十子氏、(右) 歌びと 藤本朋世氏

いちめん水のきらめけるいまを見てみて見えざるいのち」も併せて紹介したい(筆者注・藤本氏には『空のほむら 谷井美恵子の世界』の著書がある)。谷井は「きらめき」を捉えるだけで終わらず、その奥にある物をも捉える。

(吉川)「みなもと」は根源の水源でありそこには静かに水が滴っている。ただ、この発想には類例がある。

戀とは何ぞ戀ふるとはそもなにごとぞ水に投ぐれば跡なき桔梗

塚本邦雄

(廣庭)「戀とは何ぞ」とは中々言えない。「桔梗」の咲き方(苔が目一杯膨らみ、咲くと花弁、蕊が広がる)で「戀」の様子を描写する。「桔梗」は漢方薬素材(桔梗根)であり、美しさだけでなく「戀」の苦味をも暗示する。

(吉川)「戀」の語源は動詞の「戀ふる」であり、哲学的考察への意識がある。

る。「桔梗」を「水に投」げて本体が失われても、イメージは残る。そこに「戀」を結び付けている。新古今和歌集の「見渡せば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮 藤原定家」(巻四・秋歌上・三六三)が参考となろう。

まなこにはまなこを どんなこころよりまっすぐ落ちて来る花と水

井上法子

(楠)「まなこにはまなこを」に肉体的な生々しきがある。自然賛美の歌であり、韻律の良さ、具体的に明記されないがイメージが伝わる特徴がある。

(吉川)「まなこにはまなこを」は人間の見詰め合う様子を表す。片や「まっすぐ落ちて来る花と水」は落ちてても一緒になっている。人間の儂さと自然の永遠との対比ではないか。

III 歌の読みについて(吉川氏講義)

●リズムを生み出す「読み」

誰もみな死ぬものなれど一日一日死までの時間が立ちあがりくる

河野裕子『蟬声』

死はそこに抗ひがたく立つゆゑに生きてある一日一日はいつみ

上田三四一『浦井』

同じ「一日一日」でも歌によって変わる。楽譜が同じでも演奏により楽曲が異なるのと同様で、短歌とは読み手がリズムを作って読んでいく。

●書かれていないものを読み取る↓省略



歌の朗読 山田 麦氏

飾らるることも知らずに笑いたる母 そののちは五年とわずか

小高 賢『眼中のひと』

●「他者」を感じる↓自分に無かったものが、読むことで自分になる

爪楊枝のはじめの一本抜かんとし集団的な抵抗に会う

花山多佳子『晴れ・風あり』

「爪楊枝」が抵抗することの気付き。他者を感じ取ることで他者の発想が自分に入る。歌会で「私も同じ」と言うが、自分との違いを探すことが大事。

●「読み」の多様性↓正解がないからこそ、いつまでもみずみずしい

男の子なるやさしさは紛れなくかしてごらんぼくが殺してあげる

平井 弘『前線』

「殺してあげる」は残酷さとも、逆に優しさとも取れる。正解が無いからその次へと入ってゆける。

●わからない言葉が使われた歌↓検索する前にイメージしてみる
生活に面伏すごとく日々経つつセルジュリアールの踊りも過ぎむ

結社(グループ)	会 場	内 容	問い合わせ先
コスモス葛の花	八千代プラザ(多可町八千代区)	第2水曜、午後1時	0795(37)0680 岸本しげ子
茅花短歌会	ふれあい交流館(稲美町)	第2水曜、午前9時半	079(492)1766 前田 昭子
東加古川短歌会	加古川総合文化センター(加古川市)	第2金曜、午後1時	079(293)0956 水野 美子
てのひら	NPO法人てのひら(高砂市)	第1土曜、午後	079(442)2476 石原 智秋
かしの木短歌会	加西市コミュニティセンター	第2日曜、午後1時	0790(47)0403 志方 弘子
コスモス加西	中央公民館(加西市)	第2土曜、午後1時	0790(42)0415 藤岡 成子
	アステシア(加西市)	第2金曜、午後1時	

●時代の文脈
ただならぬ時は至りぬわがはじめ恐れしさまとややに変わりて

●感覚的な新しさをどう読むか
鳥を飼いたかったこともサンダルもなべて金星ほどの光点
服部真理子『行け広野へ』
自分の思い出が遠くなつて小さくなつてしまうことを「金星ほどの光点」に照応させている(筆者注・占星術では金星は太陽のイェスに抵抗して最後まで闇夜に輝くルシファーIIサタンを表し、そこにも掛けたと拝察される)。



(左) 歌びと 廣庭由利子氏、(右) 歌びと 楠 誓英氏

田谷 鋭『乳鏡』
意味不明な「セルジュリファール」の言葉の美しさが、歌を美しくする。ネットトを使えばロシアのバレエダンサーと分かるが、まず自分でイメージすることが大事である。



記録者 來田康男氏

「歌合せ」は勝敗重視でなく、歌びと達の議論を素材に、読みについて色々学んだ。「どう読むか」は読みの深化であった。吉川氏の「講義」は明快で、読みの多様性やリズム、イメージの重要性などを再認識した。若者短歌の「分かって欲しくない願望」は眼から鱗だった。豊富な内容で短歌の読みが一層広がった。

今回は才能ある歌びと達、判司、読師、講師のコーディネート、裏方に徹した小林幹也氏を始め兵庫県歌人クラブ事務局のスタッフ、神戸市、関係者の皆様の尽力により成功裏に終わった。感謝しつつ作歌の道を歩んでゆきたい。

IV 所感

歌集は全部分かる必要は無く、自分の眼で選ぶことが重要である。とくに今の若者の歌の難解さには「分かって欲しくない」願望もあるかも知れない。
柴生田稔『春山』
戦前の作。「ただならぬ時は至りぬ」は、米大統領選でトランプ氏が勝利した現代にも通じる。今分からなくても未来に分かることもあり、「読み」というものは時代に応じて変化する。

結社(グループ)	会 場	内 容	問い合わせ先
小 野 短 歌 会	コミュニティセンターおの(小野市)	第1日曜、午後	0794(62)2846 松尾 鹿次
下 東 条 短 歌 教 室	コミュニティセンター下東条(小野市)	第4日曜、午後	
東 条 短 歌 会	東条公民館(加東市)	第2日曜、午後	
美 加 志 保 巨 勢 教 室	巨勢教室(加東市東古瀬)	第3日曜、午後	078(781)0846 森嶋 郁子
明 石 大 門 歌 会	明石市立勤労福祉会館	第1土曜、午後1時	
明 石 短 歌 会	明石公園会議室	第1・3木曜、午後1時	078(936)3306 牧野 秀子
水 襲 明 石 支 社	神戸医療生活協同組合生協会館	第1土曜、午後2時	078(991)0155 池本 俊六
東 浦 短 歌 会	東浦老人福祉センター(淡路市)	第2木曜、午後1時半	0799(74)2141 片山 田佳子
ひ だ ま り 歌 会	大阪市立総合学習センター	第2火曜、午後1時	0797(84)8881 桂 保子
青 山 短 歌 グ ル ー プ	立花公民館(尼崎市)	第2木曜、午後1時	06(6429)5158 たなかみち
林 間 阪 神 支 社	中央公民館(尼崎市)	第2金曜、午後1時	06(6411)6516 内井 幸子
芦 屋 水 襲 短 歌 会	芦屋市民会館	第2土曜、午後1時半	0797(31)7220 藤井 幸子
	谷崎潤一郎記念館	第4金曜、午後1時半	
新 月 芦 屋 支 部	西宮北口生活消費センター5F	第3土曜、午後1時	078(733)8569 西村 郁
玲 瓏 関 西 歌 会	プレラにしのみや(西宮市)	2/5、5/6、10/8、午後1時	0798(52)7448 小林 幹也

ふれあいの祭典 兵庫短歌祭

入賞作品評

文部科学大臣賞

稲田 政子(養父市)

・合歓の花の咲けば小豆のとき時と母の残せる農事歳時記

「農事歳時記」なる一冊を残して、という訳ではないであろうが、小豆に限らず、四季折々の作物の作り方の手ほどきをされていた母であったのであろう。そうした農に一生をあられたであろう母への思いが具体の中にちりばめられた小気味よい作風だ。下句が簡潔なだけに、初句を字余りにしたところがよく効いている。こうした日本のど



左から芝地裕子、石谷良一、稲田政子氏

こか原風景のようなことこの薄れていく昨今にあつて、何かほっと気づかされまた新鮮さすら感じさせられる。(安藤直彦)

兵庫県知事賞

権 裕子(宝塚市)

・帆のごとくシート五枚を朝風にあつてふたたび独りの暮らし

昨夜は姉妹か親しい友人が泊まり今朝帰っていったんだらうか。夕べは楽しい時間を過ごしたのだらう。たのしい時間の後にくる寂寥感とともに、ほっとした解放感がこの作品に滲み込んでいる。上句の「シート」「朝風」の取り合わせた明い表現がしっかりと根付いている。下句の「ふたたび」の位置的確さ。ここでなければ生かされない言葉だ。そして結句に作者の集約された心境がある。いい作品だ。(河村公美)

兵庫県議会議長賞

石谷 良一(豊岡市)

・告白も別れ話も聞きにけむ電話ボックスは蜘蛛の巣だらけ

小学生から老人まで誰もが携帯電話やスマホを持つようになった。電話ボックスは昭和の時代、道路の辻や駅前にかたど立っていた。時の流れを思わせる。上句の表現はやや情に流れたが、

その暗喩的表現は読者も経験する事柄であり、共感させる力をもっている。電話ボックスを主語としたときの「けむ」は過去の経験を表し効果的である。三句までは文語の語法で少し硬い表現となったが、結句にきて「だらけ」が説明的で通俗なものとなった。電話ボックスに「蜘蛛が巣をはる」と描写で表すと上句が生きる。(藤本則子)

兵庫県教育委員会賞

芝地 裕子(豊岡市)

・帰省子は黙々と風呂を磨きおり何も聞くなど背中に書きて

帰ってきた子供がだまって風呂を磨いている。何かあつたに違いない。しかしその様子には親を寄せ付けない何かがある。風呂をひたすら磨くことによつて何かに耐え、克服しようとしているらしい。「何も聞くなど背中に書きて」が、その子供の様子を端的に表している。何があつたのか尋ねたいが尋ねられずにいる親の気持ちや歌を読む者に伝わってくる秀歌である。言葉にして親に訴えることはしないがそれでも自分を見てほしいと態度で示す子と、その子に対してただ見守るしかない親の思いである。(竹村公作)

兵庫県芸術文化協会賞

青田 綾子(神崎郡)

・軍用機の音近くなり三月の青磁の空が罅割れてゆく

安保関連法案が昨年九月に可決され法施行の議論に揺れた今年三月は、わけても危機感を煽られる日々であつた。

掲出歌は、初句「軍用機」により、いきなり読者を由由しき場面に引き寄せ、作者の仰ぎ見たのは基地周辺の空であらうか。憂愁の色を湛えた三月の空を「青磁」と隠喩し、ひとたび衝撃があれびりひりと結句から迫る。時代の遡行を危ぶみつつ、混沌たる「今」の光景を詩的表現で纏つた今日の反戦歌と言つてよいだらう。(たなかみち)

神戸市長賞

高橋久美枝(朝来市)

・撃たれたる熊の眼は里山のまぶしき空を探していたり

恐らく止むに止まれぬ事情あつて撃たれた熊だと思つが、熊から見れば食料を求めて、人の領域を犯すのも止むに止まれぬ事であらう。「里山のまぶしき空を探していたり」に作者の深い思いが察せられる。死ぬほかはない事態を前にしてまぶしい空を探す眼は何を求めていたのだらうか。何日か前の新聞に人が熊に襲われて大怪我をされたと報じられていた。最近は何体数が増えて人や農作物の被害が多発していると聞く。共生のみちを探るのも難しいことに違いない。(伊藤佐重子)

神戸市議会議長賞

上田 一成(姫路市)

・「気力」とは元気な者の言うことば道刺すごとく松葉杖つく

一読、インパクトを受け私も頂いた作品です。上句で先ず「気力」とは元気な者の言うことば」と断定し、続く下

句で「道刺すごとく松葉杖つく」と胸底からほとばしるような激しい表現で結ばれました。「道刺すごとく」がショッキングで正に読む者の心を突きさすような真実の吐露でありましょう。「元氣を出せ、氣力をもて」と励ます言葉も所詮病む者にとっては或いは空虚に聞えるのかも知れません。苦しきは病む本人にしか分かりません。経験して始めて分ることでしょう。何卒御大事に。(保田ひで)

神戸市教育委員会賞

松田 博子(神戸市)

・ 門燈の下を棲家とする守宮二匹を見届け夕刊をとる

爬虫類のヤモリの食事は小さな虫、その虫の集まる場所が食卓である。虫は光に寄せられ、門燈もその場所となる。夜行性で昼間に見かけることは少なく、人の生活帯と重なることはない。古来より家に居る虫を駆除する有益な動物として好意的に取り扱われてきた。昼と夜をわけける時間が守宮と接する貴重な時間帯。二匹はどんな間柄かは定かではないが二匹を見守る作者の穏やかな眼差しが伝わる。この関係をどう保つかは作者の手にあるが状況は続くのだろう。作者と守宮の距離感を日常に変えた良い作品です。(清水昭男)

神戸市民文化振興財団賞

池本登代子(神戸市)

・ ま青なる怒りの水をほらみつつつ琉球古酒の胴太き瓶
泡盛をはじめて飲んだ時の独特の味



左から河野信子、岩田美代子、池本登代子氏

と臭いは今でも忘れられない。「怒りの水」であると私も感じた。

沖繩には関心を持つている。実際にひめゆりの塔や摩文仁の丘を訪ねてみた。沖繩戦では多くの住民が死亡した。そして戦後の住民の生活は危険で悲惨なものであった。

「胴太き瓶」は沖繩県民の魂を示しているように思う。昨今起こっていることは表現されていないが、作者の心情は充分伝わってくる。迫力ある歌である。(足立勝蔵)

兵庫短歌祭神戸市実行委員会賞

松田津也子(たつの市)

・ 少年の履かざるシューズはわが足に馴染みて今日も庭の草ひく
子供達が成長して、履かなくなつた

靴をはいて庭の草引きをしている。庭の草引きを一人でするのは大変な仕事だが、息子の靴をはいて草引きをしていると、息子と話し合いながら一緒にしているように感じるのであろう。草引きを苦にせず楽しくしている気持ちも伝わってくる。戦中戦後の食糧難や物資不足を体験している私は、不用品でもなかなか捨てられず残している。娘の学生時代の靴をはいて田仕事をしているのと同感である。(前田昭子)

神戸芸術文化会議賞

岩田美代子(神戸市)

・ ビートルズのLP盤をバリバリと飲んでゆきたりああ回収車捨ててみるまで

捨ててみるまで「ああ」になつたと思う。買った時の思い、値段など。次々と使えなくなるもの多さ。エルピーレコードに対するあこがれは青春時代のものという年代のわれわれにとっては、流れのはやさにとまどうばかり。レコードに針を乗せる瞬間のときめきや緊張は尊い所作だつたと思うのだが、作者は何歳の方だろう。断捨離のどっかかりに涙をのんで捨てられたのである。回収車を見届け、見送られたのかも知れない。(浮田伸子)

神戸新聞社賞

河野 信子(神戸市)

・ 四月馬鹿のやうな話が実現し子らと同居の家出来る上がる
作者の溢れんばかりの欣喜が率直な表現と相俟って真つ直ぐに読み手に伝わってくる。戦後の家族制度の崩壊に

結社(グループ)	会場	内容	問い合わせ先
宝塚白珠の会	宝塚東公民館(宝塚市)	第3火曜、午後1時	072(794)0614 星野 敏江
心の花兵庫歌会	アステ6階 市民プラザ(川西市)	奇数月第1土曜、午後2時	072(794)3083 足立 晶子
ポトナム短歌会(須磨歌会)	兵庫勤労市民センター(兵庫駅前)	第4日曜、午後1時半	079(557)0679 中西 健治
万華鏡	神戸市勤労会館	第4月曜、午後1時半	078(242)1493 黒崎由起子
未来・トアロード歌会	神戸市勤労会館	第1火曜、午後1時	078(792)9057 河村 公美
潮音神戸歌会	神戸市勤労会館	第1土曜、午後1時	078(441)3740 石橋 妙子
花鏡さぼてん教室	三宮サンケアホーム	第1火曜、午後1時	

平成28年度 兵庫県歌人クラブ 「兵庫短歌賞」「新人賞」作品募集要項

資格 兵庫県歌人クラブ会員及び県下在住・在勤・在学者・他関係者
作品 未発表短歌20首
様式 1. 作品はA4判400字詰め原稿用紙2枚に浄書、右肩を綴じる

2. 1枚目の欄外に作品表題と新旧仮名遣い別を記入する
3. 作品表題・氏名・生年月日・郵便番号・住所・電話番号・所属結社名を記入した表紙をつける
4. 封筒の表に「兵庫短歌賞応募作品」と朱書きする

応募料 2,000円(作品に同封、切手不可)

締切 平成29年2月10日(消印有効)

宛先 〒666-0261 川辺郡猪名川町松尾台4-4-33 吉野節子方

兵庫県歌人クラブ「兵庫短歌賞」係

選考 兵庫県歌人クラブ兵庫短歌賞選考委員会

発表 会報第197号紙上

表彰 平成29年4月29日 兵庫県歌人クラブ総会・神戸短歌祭会場 県民会館11Fパルテホール

※平成25年度より、今までの「新人賞」の呼称を改め、「兵庫短歌賞」とし、その中に「兵庫短歌賞・新人賞・奨励賞」を設け、年度作品によって選考委員会が判断(「該当作無し」の場合もある)することとなっております。「兵庫短歌賞」に向け、既に「新人賞」「奨励賞」受賞者もご応募可です。

(問合せ先)679-5322 佐用郡佐用町上石井685 安藤直彦 TEL0790(85)0021 090-3650-2998

より、今その核家族の蔭で孤独に生きる親たちのさみしさ、悲しみも歌の背馬鹿」という初句に驚いたが作者の実感がこの言葉を呼んだのだろう。どうぞ末長くお幸せにと祈らずにはいられない。

兵庫県歌人クラブ賞

(船橋貞子)

内海 永子(たつの市)

・わが背丈十五センチ越しし少年が視ている私の知らない世界

少年は思春期を過ごす孫であろうか。作者は少年と肩を並べて気づく。何と大きく成長した事よ。そして、何を思い考えているのかと。その気持ち

が下句の言葉となった。淡々とした表現の中に、作者の複雑な思いが込められている。逞しく成長し自立していく少年の姿を嬉しく思い乍ら、無口になつて離れていく淋しさや、時には理解し難い言動に、私の知らない世界を視ていると戸惑う作者の心情が感じとれる。奥行き深い作品である。

(石原智秋)

入選(8人)

森嶋 郁子(神戸市)

・越してきた幼の笑ひ泣く声が古いゆく町のカンフルとなる

・逝きたりし学徒の数の記念樹が駅よ

寺田 絃子(たつの市)

- り続くその学舎まで
西塚 洋子(神戸市)
・どこにでも居さうな人となりにけり海月のやうに漂つてゆく
渡辺 啓子(神戸市)
・雨あがり施設の母と曼荼羅の塗り絵しているこの世の時間
栗村 涼子(神戸市)
・幾万の人の欲した水だろうドームをぬらす八月の雨
田井 久恵(西宮市)
・「底抜けに明るい声を取り柄です」デイケアスタッフ腕まくりして
石原 智秋(高砂市)
・分数の計算理解できぬ兒よ今日のお昼はピザを頼もう
岸本 瞳(玉塚市)
・ふるさとの稲穂の波に風渡る父はこの夏米を作らず
佳作(18名)
後藤政基(相生市)、末永拓男(神戸市)、岡本光代(宍粟市)、吉田ひさえ(伊丹市)、大場隆司(豊岡市)、松田辰子(加西市)、秋本多恵(岐阜県、多田まどか(加古川市)、釜地順子(相生市)、矢内温代(神戸市)、沼田俊郎(加古郡)、山本みさよ(神戸市)、増井多恵子(加古川市)、鈴木美樹(高砂市)、生田よしえ(姫路市)、星野敏江(川西市)、川上千鶴子(揖保郡)、桂日呂志(加東市)

Table with 4 columns: 結社(グループ), 会場, 内容, 問い合わせ先. Rows include 花鏡木曜教室, 花潮会, KCC舞子短歌教室, CO・OP文化センター短歌教室, 海市短歌会, 神戸白珠の会, 高嶺(神戸支部), 波濤神戸.

ジュニア部門

総評

安藤直彦

中学生、高校生の短歌作品を拝見して、例年感じることが、表記のミス、乱れがほとんどないということ、そして、やらされている感じではなく、自分の言葉で作っているということである。担当の先生のご指導の賜物でもあろう。こうして心の文化が次世代につながっていくことを喜びとしたい。

入賞作品選評

桂 保子

兵庫県知事賞

園田学園高等学校

二年 矢倉 ゆう



矢倉ゆうさん

・夏風に木の葉がゆれて枝が鳴り言ってしまった言葉が騒ぐ、

「夏風に」の爽やかな言葉から入って結句では、口から放った言葉、即ち「言ってしまった言葉」は取り戻せない後悔を滲ませる巧みな作品。「木の葉」と「言葉」が呼応し韻律も見事！

兵庫県議会議員賞

兵庫県立篠山産業高等学校

一年 芝 晃平

・亡き父と歩いた道はすべてよしこぼれた涙父にとどける
大変な体験をした作者の悲しみがストリートに伝わる歌。「すべてよし」、この力強い表現が効いている。天国の父上に気持ちも「涙」も届いたはず。詠うことで力ある翼を手に入れたね。

兵庫県教育委員会賞

兵庫県立佐用高等学校

二年 居合かがり

・ジージーとセミさえせかす夏課題サ
インコサイン正弦定理
数学用語の「正弦定理」が一首の中に上手く取り込まれ、高校二年の夏にしか詠めない時間が永遠化した。セミの鳴き声を「せかす」と捉えた感覚に共感です。表記は「急かす」がお勧め。

兵庫県芸術文化協会賞

相生市立矢野川中学校

二年 小池 妃咲

・振り抜いた手元に残るいい感じナイ
スポールの掛け声響く
上句の的確な動作描写と微妙な体感
そしアングルを変えての下句の聴覚情報
報がうまく響き合って、明るく元気のある歌。スポーツの躍動感、仲間と過ごす時間の喜びが素直に伝わる。

神戸市長賞

篠山市立篠山中学校

二年 矢島 実紅

・靴の紐ギュツと結んでいざ行くぞ手
にはラケット私の相棒
テニスだるうか、試合に臨む前の緊張感、高揚感が伝わる。靴の紐を結ぶ場面からの歌い起こしも「ギュツと結んで」のオノマトペも効いて、臨場感



矢島実紅さん

がある。「ぞ」も働き、みなぎる闘志が快い。

神戸市議会議員賞

日ノ本学園高等学校

三年 萩原菜々子

・おはようとはじめて君に言えたとき
私は思わず駆け足になる
何と初々しく若さあふれる歌だろう。
「はじめて」の語彙の醸すフレッシュ感が効いて、恋の予感の第一歩が読者にそっと届けられた。結句を感情語でなく、行為の描写で締めた手法に賛成。

神戸市教育委員会賞

三木市立緑が丘中学校

二年 中野 翔斗

・8月のカレンダーとるビリビリと音
たてながら去ってゆく夏



中野翔斗さん

中野君は中二、こんなに若いのに去り行く夏への哀惜感を上手く表現した。カレンダーという素材の選択のよろしさと紙を剥き取る「ビリビリ」音を擬人法で夏にも掛けた表現がお手柄。

神戸市民文化振興財団賞

赤穂市立有年中学校

三年 岩崎 水萌

・夕立は恵みの雨だと笑う祖父私の靴
はびちよびちよなの
映像が見える楽しい歌だ。作者の靴は夕立で「びちよびちよ」と最悪。けれども祖父は夕立をプラスイメージで捉え、孫をほのぼのと眺めている。そのギャップの妙をうまく掬い取った。

兵庫短歌祭神戸市実行委員会会長賞

篠山市立篠山中学校

二年 木寅 蒼太

・夏終わり金魚のいない水槽にふつと
と吹きかけ水面を揺らす
晩夏の淋しさ、去り行く季節への哀感のような微妙な心の揺れを作者の小さな行為描写でうまく掬い取った。盛夏には元気に泳いでいた金魚がもう水槽に居ないんだ。「ふつ」がいい。

神戸芸術文化会議員賞

神戸第一高等学校

一年 宮崎 桂

・「行って来ます。」それが最後の言葉
でした別れというは突然です
作品の背後の状況、つまり誰の「最後の言葉」なのかは伏せられているが
或る日常が予期せぬ方向に転換してしま
った時の悲しみを冷静に表現し得た。
破調もこの歌の屈折感には効いている。

神戸新聞社賞

神戸第一高等学校

一年 中谷 綾乃

・「好きだった。過去形でしか言えなくて最後の嘘は嫌いになったよ。」

うーん、辛い歌ですね。辛いけど辛

いからこそいい歌が生まれたと思いま

す。「好きだった。」から「嫌いになっ

たよ。」に変化した科白の後にある心理

が「嘘」の語彙で鮮明に伝わりませ

兵庫県歌人クラブ賞

南あわじ市立三原中学校

・きれいだね僕の顔見て笑う君言つて

しまるか君がきれい

「きれい」の語彙が初句と第五句に

二回用いられていてこれが快いリズム

を作り、韻律美しく情景がちんと見

える作品。四句と五句の倒置が効果的

初々しくて明るく伸びやかな歌だ。

兵庫県歌人クラブ賞

兵庫県立佐用高等学校

・無機質に指示する電話に従ってカー

ド廃棄の操作終えたり

カードの廃棄時の違和感をうまく掬

いあげた。対面にて廃棄処分の手順を

説かれるのも淋しいが、電話で操作手

順が伝えられるのが現代の状況なのか

「無機質」の一語が効いている。

兵庫県歌人クラブ賞

兵庫県立佐用高等学校

・もう少し話しておけばよかつたと動

かぬ祖父をただ見続ける
おじい様は体調を崩されて深刻な状

況なんですね。もう会話が成り立たな

い……。優しい気持ちで滲んだ素直な

いい歌です。結句の「ただ」の二音が

効いています。切ないですね。

兵庫県歌人クラブ賞

三木市立緑が丘中学校

・背が伸びた体重増えた髪伸びた心の

成長追いかけてく

「伸びた」「増えた」、そして重ねて

「伸びた」と畳みかけたことで軽快なり

ズムが生まれ、成長期の時間を上手く

活写した作品です。最後に「心」をも

つてきたこともお手柄。

兵庫県歌人クラブ賞

六粟市立波賀中学校

・放課後に誰もいないと確かめて静か

な廊下跳びはねてみる

小さな秘密を打ち明けられた感じで

楽しい作品。周りを気にして見回す作

者の仕草と第五句の「跳びはね」る二

つの映像が見える。飛び跳ねたくなる

ラッキーな事があったのでしようね。

入選 (15名)

姫路市立香寺中学校 横山 博香

・杖つきて畑をあゆむ祖母の手に赤い

トマトと入道雲

伊丹市立北中学校 岡 雅

・昼下がり猫とたわむれ我が足は黒猫

ゆきちの腰かけと化す

伊丹市立北中学校 結城 花菜

・幼児見て自分の過去を思い出す私こ

んなにいい子でしたか
兵庫教育大学附属中学校 松山みこと

・葡萄の木擁わに実り届きたい笑顔で

食べた天空の祖父まで

神戸市立白川台中学校 木村 ゆう

・ペランダに並んだ母のサンダルが教

えてくれる夏の訪れ

神戸市立六甲アイランド高等学校 益田 麻輝

・窓際の席から君は遠すぎて笑顔でい

ますか笑顔を見たいよ

日ノ本学園高等学校 鴨川 果奈

・夏休み子どもの声とリコーダー自然

と笑顔魔法の音色

南あわじ市立三原中学校 富永 望萌

・青い空緑の田畑に赤い鳥居故郷が好

きだとやっぱりおもう

姫路市立坊勢中学校 岡田 英梨

・大好きなプリンに名前書いたけど私

の目の前それ食べる父

伊丹市立北中学校 徳山 心陽

・だんご虫ころろところがる姿みてみ

んなまねっこさあ変身だ

兵庫県立佐用高等学校 吉田 明生

・稲穂揺れぼくの心もゆれ動くある秋

のこと僕は恋した

神戸市立白川台中学校 中本 康平

・歓声と蝉の声すら無になつて勝ちた

い気持ちただ追う白球

六粟市立波賀中学校 勝部 瑠維那

・梅干しを食べると胸が熱くなる思い

出すのは亡き祖母の顔

兵庫県立大学附属中学校 木村 夏実

・終戦は人が作つた戯れ言でこの瞬間

も誰かが死んだ
兵庫県立山崎高等学校 松本 紗菜

佳作 (35名)

篠山市立篠山中学校 中島 秀時

篠山市立篠山中学校 小林 拓翔

篠山市立篠山中学校 西野 太智

南あわじ市立三原中学校 富永 梨湖

南あわじ市立三原中学校 中田 智菜

南あわじ市立三原中学校 岡谷 愛音

明石市立大蔵中学校 渡邊 佳奈

三木市立三木中学校 岡田 菜摘

三木市立三木中学校 浅田竜之介

伊丹市立北中学校 西村 瑠華

姫路市立城山中学校 澤田みなみ

姫路市立東光中学校 白井 拳斗

姫路市立東光中学校 島鳥 稜月

宍粟市立一宮南中学校 池淵 未奈

三木市立緑が丘中学校 川人 太翔

兵庫県立大学附属中学校 藤井 優樹

兵庫県立大学附属中学校 齋藤 龍輝

神戸市立義務教育学校港島学園 松尾 萌華

神戸第一高等学校 横山 碧海

神戸第一高等学校 飯干 龍樹

神戸第一高等学校 横山 翔梧

神戸市立六甲アイランド高等学校 大山 千裕

青陽須磨支援学校高等部 岡崎 圭菜

加東市立滝野中学校 黒田 陸

小野市立旭丘中学校 百田 千晴

西脇市立西脇中学校 前田 芽祈

柳学園中学校 伊藤 帆南

三木市立志染中学校 奥平 裕亮

姫路市立安室中学校 坂本 弘樹

三木市立星陽中学校 志水 雄飛

姫路市立山陽中学校 藤原 菜緒

神戸市立横尾中学校 逸見 颯華

高梨 愛香

中井 美希

高田 遥那

逸見 颯華

藤原 菜緒

志水 雄飛

坂本 弘樹

奥平 裕亮

伊藤 帆南

前田 芽祈

百田 千晴

黒田 陸

岡崎 圭菜

大山 千裕

横山 翔梧

飯干 龍樹

横山 碧海

松尾 萌華

齋藤 龍輝

藤井 優樹

川人 太翔

池淵 未奈

島鳥 稜月

白井 拳斗

澤田みなみ

西村 瑠華

浅田竜之介

岡田 菜摘

渡邊 佳奈

岡谷 愛音

中田 智菜

富永 梨湖

平成二十七年 度

兵庫短歌賞応募作品評

はじめに

安藤直彦

本年度の応募はノミネート十編、一般二十三編で、特に三十代前半の若い人たちの作が際立っていた。「兵庫短歌賞」、「新人賞」(二人)、奨励賞(二人)と受賞の数も多くなったが、これは決して審査が甘かったということではなかった。若い人を優先したからでもない。賞とならなかつた作品もそれぞれに力作が多く、今後が期待される。この欄のおのおのへの評言を参考にされ、これから期していただきたいと願う。よき歌は生を強めるといふ。

あふれる思いをどう表すか

小谷 博泰

桂 日呂志

・末期癌病める娘に添寝して夜蟬の声を二人して聞く

・牛小屋の北を塞ぎし簾戸を固く巻きあげ春日を入れる

認知症の母の介護、末期癌の娘の看病と、人生の重大事が交差する連作である。前者の作品にある概念的にまとめたような語句からやや距離を感じる場合があるが、たんたんと情景を叙述した後者の方に臨場感がより強いようだ。

「遺言」

菅原 艶子

・三日なる休暇が済めば駆逐艦・桑に乗るとぞ言ひしが最後

・形見とも遺書ともなしてわが持つ妻も子もなき兄の手書きを

作者の十歳のときに出征して戦死した兄をめぐる、さまざまな出来事や残された家族の思いを詠んだもの。戦争の直接の場面をえがかず、戦争というものの実態を深くえがきだしている連作である。具体的に情景が描かれている。

「夫婦共に病みて(闘病日記)」

棘木 正市

・老人ホームに妻を預けて星覗く明日は我が目の左手術日

・永年に妻の育てし花鉢も貰われ減りつつ冬の深まる

脳梗塞で左の手足の動かなくなつた妻と、眼病で目の玉を抜いて人口の目に入れ替える夫。突然の大病に襲われて一年の経験を詠んだものである。言葉によって思いを強調した作品より抑えて具体的に表現した作品の方に力がある。

観察眼

尾崎まゆみ

「月の在り処」

福島 妙子

・雨足の白白けぶるアスファルト雨粒あまたタップダンスを

・くもり空へと洗濯ハンガー廻つてる見えない風が芥を浮かす

雨足・アスファルト・雨粒あまた。「あ」音を連ねて雨の日の憂鬱を染しみに変える。見えない風が生活の芥を浮かす。その発想の豊かさの光る作品を支える感覚のみずみずしさが魅力。一連の構成が少し緩いのが惜しまれる。

「二点の雪」

大塚 公夫

・幾万の堂の蕘をへだてなく銀に染めぬく大寒の月
・奈落にも涯底やあらむ浮遊せる鏡のなかの痩せ細るわれ
一連から滲むいのちへの慈しみに心を打たれた。へだてなく蕘を染める「大寒の月」は、いのちの終わりに除外例はないという思いも照らす。そのいのちを見つめる意思の強さが、短歌に鋼のような鋭さを与える。

「軟骨崩壊」

岡田 恭代

・「バランス」は神の摂理ぞ痛む脚底いて歩めばわれヤジロベエ

・契約の五分前なるヘルパーさんまつ赤なバイクにもたれてスマホす

股関節の手術前後の様子が伝わる一連は、作者の冷静な観察眼によつて単なる闘病詠を越える。「バランス」感覚の良さと、ヘルパーさんという役割の人の内面を見る眼が印象的。題名が衝撃的すぎると内容が霞む。

秀歌寸評

中川 昭

「残生」

福山 裕恵

・声あげぬ日々の平穩いつしかに慣れて無言の電車に揺られ

・加護熱く語る青年そのさきに高層ビル群しんかんとたつ

一連すべて秀作。新しい才能に接した喜びを感じる。懊悩する個の悲しみは際立つて初句に表れた。単に「揺られ」ているのではあるまい。声をあげ得ぬもどかしさになお揺れていると読むべきだろう。二首目初句「神を熱く」に。

「振り子」

朝倉 恵子

・寝押しする鬘のスカート思い出す時計のゼンマイ夜毎巻きいし

・ネコヤナギのほのかに芽吹く一月尽わたしの時間ややすれている

捨て難く残る感性の二首だ。だが「巻きいし」と過去を歌っているのになぜ「思い出す」なのか。これは全く不用の言葉。恋の歌と解釈したいのだが、さて・・・二首目は春に遅れている自分を揶揄する結句に、作者の才を見た。

「いやじゃ」

老月 良一

・待合室をそこそこ混みて問診票上の方から埋めてゆくくなり

・体重の半分くらい重しつけ足を引くなり真つ直ぐに引く

整形外科に通う脊椎側弯症の作者。その痛みは尋常ではなさそうだ。痛みを耐えながらも問診票に記入するのだが、救いは「そこそこの混み」。順番にはやる気持ち伝わる。二首目下の句、リフレインに男の悲しみさえこもる。

感動の中心を詠む

野瀬昭二

武内 栄子

「村雨」

・五歳なる私は母に道すがら電車に乗ると困らせたとかどこへの道すがらか不明なので連作への導入に持つてくる歌としては不足。二十首読めば疎開の道すがらとわかる光景なのだが。次の「村雨の」の歌が一首目なら良い。

・村またぐ虹はひんがし村雨のあがりし播磨野わが住む処

・「赤とんぼ」の碑に舞うさくらひとひらを見するぼんぼり宴のさなか

何の誰の宴かがわかつたら良い。把握は達者だと思いが大切なところが安易になつていようで訴えが弱い。

「わが想い」

嶋澤 隆

・おれ残し先に旅立ちあの世へと虚しき想い未だ変わらず二十首中九首に想いという言葉が使われている。一気呵成に詠んでいて意欲は感じられる。想いの中身を明確に。想いは表題だけでよい。それぞれの想いの具象がほしかった。

・初春に古老の旅はいと寂し想いを鎮めん亡妻との同行

「古老」は孤独の「孤老」の意味であろうか。中身はシビアだが表現が弱い。結句に「亡妻と発つ同行の旅」という言葉に至つて欲しかった。

「蟹ツアー」

塩見 俊郎

・前席の夫婦三組腰下し蟹づくしツアーは発車オーライ愉快な内容が想像されてその気になる。

・駐車場運転席のシニアは新聞掲げ朝のひと時を過ぐす後半のツアーとは関係ない雑詠が惜しい。最後の一首を批評者は雑詠と解釈する。「ハンドルに新聞のせおり朝のひと時」で終わればよい。過ぐすは不要。三者三様の一首目と最後の歌をあえて取り上げた。

詠うとは命を見つめよう

黒崎由起子

「皆既月食」

竹村 公作

・手を握りあらためて知る母の手が死ねばこんなに冷たくなると九十六年生きたんだからいいだろう冷たい額を撫でてやりたり

母を失った喪失感、独りで逝かせたことの罪悪感、亡骸となり死化粧された母への違和感など複雑に絡む思いをさらりと詠まれている。「いいだろう」の呼びかけに「もつと共に過ぐせる時があつたら」との思いが潜んでいるようだ。

「けがれたなき腫」

真砂 晃美

・泥水を被る度ごと輝きを増せり真白き胸もつばさも

・東の風ひがしに巻かれて千万の桜花びら旅立ちゆけり
白い羽ゆえに仲間より疎外され、他者からの標的にされる雀。作者はその異形の者の純粋性を愛し、花で光で大きく包み春風とともに空へ解き放つ。風に散る花びらに羽ばたく白い翼が重なり、命の再生を暗示させる。

「亀の手」

小畑 恵子

・たんぼぼは綿毛とばして丸坊主びるびるり宇宙人なり
目の中に飛んで飛んで飛んでる黒き虫住んで三年出ていつてくれ

三十一音の中にエネルギーギッシュな言葉が踊る。日常生活から作者が掴んだ思いを、そうそうその通りと青いつつも、惜しいなあともあると思う。過剰になりがちな言葉を削り整理することで、よりユニークな作品となり得るだろう。

歌に証す人生

田岡弘子

小田部桂子

「どんなふうに生きても」

①泣くやうに鳴るヴァイオリン 安穩に暮らすこともできたと思ふ

②机に寄りて静かな昼の中にある。どんなふう生きててもへ一生へ
自身の生き方について深く思索する二首。①泣くやうに・の比喻に過ぎ来しへの揺れる心情が重なる。②つきつめて得た達観か。句点を用いたのは、考えた上の表現方法として納得できる。身辺から社会詠までの確に詠む力ある作者。

「走馬灯」

岡本 絹江

①内科外科めぐり巡りて満杯のお薬手帳に春待つ心
②霜の朝亡父の形見のつりしのぶ陽春に芽吹けと軒端に移す

素直に詠んだ日々の思ひは共感を呼ぶだろう。①春よこいと待つ切実な老の心。②つりしのぶは亡父の形見、大切に軒端に移す追慕の情をしみじみと詠む。〈老いて学べる我が歌〉を〈花咲かぬまま〉にしないよう詠み続けられたい。

「考えよう」

長谷川喜世子

①自転車で追いこす男 子づれ人信号無視のモラルは如何に

②チョンチョンと拍子打つ音 子等の声 防犯の時今年も来たる

とても行動的な暮らしぶりが記録されている。①自転車で追いこした男の信号無視を「問う正義感」。②年末の風景だが、拍子木打つ・防犯の時季と直したい。〈老いても自立独立忘れずに〉と歌う作者を敬し、気概ある日々をこぞ念じる。

一連全体の構成に統一感を

安藤 直彦

「ア・ラ・カルト」

西村 節子

・生れつき馬鹿の大足と言はれきてこの大足に秋の道ゆく
・フルートは超絶技巧のア・ラ・カルト太筆えい！と墨打つごとし
全体に動的な詠風が好ましい。それだけに二十首を構成するに当たつて今少し

「ア・ラ・カルト」の題に沿って、テーマ性を明確に配列すると訴求力が増すのではないか。一首の独立性を保ちつつ、全体のテーマ性へのさらなる配慮によって作品力が増すことが思われた。

「冬の風鈴」

東 陽子

・ 姫路より神戸の床に棲み替えて掛軸の鴨一羽馴染まず
・ 信号が変われば忽ちクラクション鳴らされており不馴れな街に
全体に、実生活に基づいた誠実な詠風。一首目は引越したにもなつての「掛軸の鴨」を詠ってユニークだが「二羽」が場の構成を曖昧にしている。「掛け軸に描かれた鴨は複数で、その中の一羽が、というより、掛け軸の鴨がまだ神戸に馴染んでいないとした方がいい。二首目のような作に好感を持った。

「独り下車する」

來田 康男

・ 射出せし精液の温度も冷めぬ間に絶望感に我は喰はるる
・ そりの合はぬ上司の次に座る便座その温みだけ共有し合ふ
來田さんの歌の特色を右はよく表している。諧謔、皮肉、自虐性、あるいは露悪性など良くも悪しくも刺激的。そこに依り過ぎの嫌いがあるのかもしれない。一首目はそれが顕著、二首目ほどであるべきではないか。旧仮名表現ながら一部(「考え」↓「考へ」)の間違ひがあった。

自分を表出しよう

三津野幸代

「君のポラリス」

大江 美典

・ 三月の雲一つない空の下ビッグバンのごと始まる生命
・ クレヨンで描く闇夜はあたたかく君にかかれれば世界は光
・ 寂しさは映し鏡の冬銀河だから帰るうあの子の元へ
・ いつだって母は私のポラリスで私もなりたいたいのポラリス
一連の二十首は星と月を描写しながら、しっかりと生きる指標を表出、又君への想いも吐露し個性豊かに詠い上げており最後まで読者を魅了して止まない。

「スクランブル」

山本みさよ

・ 浴槽にどつぶり沈む 言葉にはださざる思ひの泡立ちてゆく
上句で先ず読者に姿が視える。これは大変大切なことである。鉛のように溜ったもやもやが気泡となって浮いてゆく解放感が共感を呼び好感が持てる歌。
・ 今ならばどこへも行けると唆しスクランブルはみな青点す
この一首も解放感を詠んでいっているととっても過言ではあるまい。「スクランブル交差点」が正しいが「青点す」で判る。擬人法だが壮快感溢れる一首。

「赤いポスト」

末澤千世子

・ 彼岸にも赤いポストがあるかしら番地さがして冬の蝶舞う

逝ってしまった人への残念の思いが蝶の姿を借りて表出されている。蝶イコール作者でもあるのだ。冬の蝶の迷い迷い舞う姿が四句と照応して効いている。
・ 老々の介護地でゆく二人居にピンポン玉のような孫くる
長命の世となったのは嬉しいが、お互いが辿る老々介護の道である。そんな折のお孫さんの来訪は活性剤。片時もじっとして居ない活発な孫への温かい目。

高いボルテージで20首全てを詠む難しさ

小林 幹也

「月詠」

眞住 彰

・ 群舞する蝙蝠高く低く飛び薄暮の空に臘月出づ
・ 舟の音入江に満ちてかしましく明けゆかんとする星月夜かな
「月」ばかりを描いた意欲作。とくに右二首には作者の独自の視点が見られた。ただ古典から現代まで長く詠み継がれてきたものだけに、既視感のある歌がいくつか含まれていたのが惜しまれる。

「北斗七星」

小林 まや

・ 重低音響かせ武骨なヘリコプター立春の日の空渡りゆく
・ 遠山に霞立つらしほのぼのと日の温もりの大気に満ちて
前半は介護詠が並び、後半はそれに対して突き抜けたように大空を詠んだ歌が並ぶ。その構成に魅かれた。引用歌は後半より。前半にもこのくらい一首として勝負できる歌が欲しかった。

「すぎゆけり」

内藤みさを

・ ざざーと岩ひばりの群れに迎へられ長蔵小屋はそこに在りたり
・ よべの雷はどこにゆきしや幾条のポプラの枝は天空を刺す
・ 理屈というより、皮膚感覚で詠んだような右の二首に魅かれた。その光景がひしひしと伝わってくる。ただ一連中、ここまで感覚が研ぎ澄まされていないものもあり惜しかった。高いボルテージで20首全てを詠む難しさを感じた。

「無言劇」

石飛 俊郎

・ 音量を上げてテレビを観てをれば無言に妻が来て下げて去る
・ 新春をことほぎ立つる門松の竹の斜めの切り口さやか
・ 家庭の人間関係が垣間見られる、ほのぼのとした笑いがあり、さりげないところに品位が感じられる。くりかえし読むほどに、素朴な表現が却って味わいを深める歌が多かった。



「第6回歌集批評会記」

藤岡成子

平成28年6月18日 (於) 兵庫勤労市民センター 久しぶりの批評会は出席者57名。大入り満員の会となった。

今回は、牧野秀子歌集『水の言葉』と桂保子歌集『天空の地図』を鑑賞。レポーターは尾崎まゆみ氏と中川昭氏。司会是小林幹也氏が担当した。

『水の言葉』からスタート。三十年という長い年月を伝統に基づいた手法で地に足を付けて詠み、理屈っぽさがなく好感が持てる。また、見えぬものを詠もうとする姿勢、感覚の良さがある。
・待つことも待たることもなき時間さくらの下にぼつかりとある
・透明な傘さして行く青年が溶暗といふ消え方をせり
続いて『天空の地図』。夫を亡くした悲しみが根底にあり、蠢く魂を自己抑制を利かせながら詠んでいる。また、漢字を分解し、そのパーツを解いたり繋いだりして、手の込んだ技巧のうまさがある。
・月光はひとつひとつの箱に射し観覧車いま供花のかがやき
・木と春と象のいづれも好き



桂氏(左)、牧野氏(右)

ですが触れてその後の難儀(難儀) 樁象

総評として、歌の作り方は牧野氏、桂氏ともに共通して借り物でない自分を客観的に詠んでいて手慣れている。会場から方言の読み方、関西と関東のイントネーションの違いについての意見。また、公募する作品の向き、不向きなど多岐にわたって意見が出され大いに盛り上がった。

「第7回歌集批評会」記

池本登代子

平成28年9月10日

(於) 兵庫勤労市民センター 早々の台風に不安定な天候が続いていたが、ようやく秋の訪れが感じられ、出席者57名の活気ある会であった。今回は生田よしえ歌集『ふ

たたびの円』と吉野節子歌集『加良怒』が取りあげられた。レポーターは中川昭氏・尾崎まゆみ氏。司会は小林幹也氏が担当した。

生田よしえ氏の歌集を中川昭氏は①「音とひかりの歌」、②「人間の歌」と分けて話された。①では聴覚と視覚が研ぎ澄まされて完成度の高い歌と評された。②は写実の歌の中に人間の奥深い思いが読みとられると評される。その中から二首。

・湿りたる朝の砂の靴跡に参みくるものひかりを帯ぶる
・みづからの重みにしなむ切り岸の竹は互に打ちあひてをり

吉野氏の歌集を、尾崎氏は①蠢くもの・発酵・水・人・音・感覚・師
②言葉・虚・家族 と分けて評された。

民族的な思いが根底にある。言葉の奥深さや重みを上手く使っている。感覚が鋭い。物から転換していく技巧をあげられた。その中から二首。
・弓持ちて女が立てばわたつみの底のしづげさ 夜の電車は
・臍月雨胸の若葉にしたたりて鉄砲水のごと逢ひに行きにけり
会場からは一字空け・句読

点など使い方の質問もあり話が盛り上がった。最後に生田、吉野ご二人からお礼と今後も頑張りたいとの言葉があり満席の批評会は熱気漂うなか終了した。



左から、小林、尾崎、吉野、生田、中川各氏

「受賞しました」

☆潮音賞

平成28年1月 増井定子

☆兵庫県文化功労賞

平成28年5月 安藤直彦

☆半どのの会現代芸術賞

平成28年7月 中川 昭

☆近畿ブロック優良歌集賞

平成28年9月 たなかみち

☆大阪短歌文学賞

平成28年10月 吉野節子

地区通信

【阪神】 5月15日、伊丹市立図書館にて「俳句短歌」ライブ開催。短歌選者尾崎まゆみ氏、俳句選者坪内稔典氏。57名出席。▼9月10日、大阪リバーサイドホテルにて日本歌人クラブ近畿大会開催。島田幸典歌集『駅程』とたなかみち歌集『具体』が近畿ブロック優良歌集賞受賞。楠田智佐美氏他80名出席。▼10月10日、兵庫勤労市民センターにて森垣岳歌集『遺伝子の舟』批評会開催。パネリストは香川ヒサ、中津昌子、吉岡太郎、楠誓英各氏。司会魚村晋太郎氏。楠田立身、中野昭子、浮田伸子、萩岡良博、間野少各氏他60余名出席。▼10月29日、エルおおさかにて吉野節子歌集『加良怒』が大阪短歌文学賞受賞。出席者46名。
(たなかみち、吉野節子)

【神戸】 5月22日、海市の会は伊丹へ吟行。昆陽池公園、昆虫館、荒牧バラ園、有岡城跡公園を散策。10名参加。▼6月28日、神戸市役所における神戸芸術文化会議芸芸部会に尾崎まゆみ、黒崎由起子両氏出席。▼7月17日、生田神社会館において半どのの会文化賞贈呈式が開催され、中川

昭氏に現代芸術賞が贈呈された。参加者は楠田立身、前田昭子、浮田伸子、生田よしえ、明石多美子、矢野一代各氏他。

▼7月20日神戸ポートピアホテルにおいて、平成28年度神戸芸術文化協議総会・懇親会開催、中川昭、黒崎由起子両氏が出席。▼9月6日、日本短歌雑誌連盟理事會に三津野幸代氏出席。▼9月29日、花鏡秋の摩耶山吟行、30名参加。

▼10月17日、灘区小学生短歌コンテスト(1600首)審査會に三津野幸代氏出席。▼10月27、28日文学園は神崎郡神河町(フリーンエコー笠形)に吟行。参加者21名。

(黒崎由起子)

【白石】▼白石(ペンクラブ)は、機関誌『白石大門』と「白石大門だより」の発行を平成27年度で終了。有志による活動は続行。4月23日に「白石ペンクラブ通信」を発行。以後月1回月報として発行。月例會は、作品発表誌を発行予定。

▼5月31日、明石市柿本神社にて第156回春季献詠祭を開催。選者楠田立見氏。兼題「薔薇」競点題「道」。▼7月例会は野瀬昭二、伊藤敦子両氏が「作歌の要点」を講話。▼9月24日、明石ペンクラブ通信「第6号」を発行。

(伊藤敦子)

【姫路】6月5日、姫路市民會館にて姫路歌人クラブ短歌大会を開催。出詠歌247首。水野美子、神保原廣己、小松カヅ子、濱守各氏ら百余名出席。姫路市長賞安田多加子氏。神戸新聞社賞石原由美子氏。作品評は内海永子、濱守浮田伸子、飯田進の各氏が担当。講演は小畑庸子氏。演題は「説明と表現」。▼8月6、7日、姫路市キャッスルグラウンドヴィリオホテルにて「短歌人」夏季全国集會を開催。講演は松村正直氏による「石川啄木と土岐善麿」。参加者は小池光、藤原龍一郎、吉岡生夫各氏ら88名。県内から西橋美保、高井忠明、矢野義信各氏ほか出席。

(飯田進)

【東播】7月1、31日、茅花短歌會は稲美町ふれあい交流館で短冊を展示。▼7月17日、半どのの会現代芸術賞贈呈式が生田神社會館で行われ、中川昭氏が受賞。前田昭子氏が県歌人クラブの代表として出席。▼7月24日、稲美町天満神社の湯立式に前田昭子氏参加。▼8月9日、京都冷泉家の乞巧奠(きつこうてん)に印南野半どのの會より前田昭子氏参加。▼9月14日、茅花短歌會は茅花第百八十号の記念誌を発刊。▼10月18日、恒

例の天満小学校6年の短歌指導に茅花短歌會より前田昭子氏他5名出席。(前田昭子)

【中播】5月26、27日、水巻姫路支社は水巻全国大会(京都メルパークホール)に小畑選者他22名参加。▼6月5日、第30回吹田市短歌大会(吹田市文化會館)にて阿部綾子・安田玲子両氏(水巻)入選。▼7月2日、第19回山川登美子記念短歌大会にて吉永明代氏(水巻)佳作。▼7月23日、与謝野晶子文学賞に吉永明代氏(水巻)入選。▼8月6日、山桃忌奉賛短歌祭(福崎町文化センター)にて楠田立身氏は選考と講評を担当。入賞吉田千代美、山下清市両氏(文学園)他6名。▼9月17日、第37回全日本短歌大会にて吉永明代氏(水巻)奨励賞。

(生田よしえ)

【北播】6月4日、小野市うるおい交流館エクラにて第8回小野市詩歌文学賞・第27回上田三四二記念小野市短歌フオーラム開催。詩歌文学賞米川千嘉子氏(短歌部)。応募数一般の部1321首。学生の部6582首。入選者一般の部最優秀賞一席茅野侑希氏(埼玉県さいたま市)、学生の部最優秀賞土江愛絆さん(小野東小1年)他2名。出席者小野市長蓬來務、選者永田和

宏、宇多喜代子氏他406名。▼7月3日三木市中央公民館にて第59回北播短歌大会開催。応募数一般の部304首、特選栗畑淑子氏(西脇市)他。学生の部入選芝崎栄喜さん(中吉川小六年)他55名。出席者三木市副市長北井信一郎氏他175名。▼9月10日、小野市中央公民館にて小野市文化祭芸部短歌大会開催。応募数67首。市長賞金川千鶴子氏(加東市)。出席者小野市教育委員會いきいき社会創造課長松本英人氏他20名。

【西播】9月25日、さよう文化情報センターにて、佐用町秋季短歌大会開催。出詠50首。秋季大会賞横山郁子氏。選者安藤彦彦、新家イサ子、菅原艶子、船引貴明各氏。32名参加。▼10月30日、西播磨文化會館にて西播磨短歌祭開催。一般の部、146首。学生の部、1141首。選歌水野美子、上田一成、尼子勝義、内海永子、安藤はつ子、飯田進各氏。歌評は尼子勝義、内海永子、安東はつ子、飯田進各氏が担当。兵庫県知事賞水守紀子氏、兵庫県西播磨県民局長賞中本健太さん(新宮中)出席約50名。

(松尾鹿次)

【淡路】7月16日、洲本市立洲本図書館にて第35回全淡路歌祭開催。荒濱悦子、来田務清水昭男氏ら65名出席。一般の部81首。淡路歌人クラブ賞東根千鶴子、下村三重子、久田美智子、松岡千世代、大木津多代、赤松恭子各氏。ジュニア二次選考21首。講演は尾崎まゆみ氏「言葉の奥行」。▼10月23日、洲本市民図書館まつりに協賛し「ふれあい短歌教室」を開催。短歌に興味を持つ市民9名参加。各自1首ずつ投稿し、淡路歌人クラブ役員が添削指導。役員7名の詠草を含めた16首が神戸新聞淡路版に後日掲載予定。▼11月、東浦短歌會は年刊歌集『給水塔』第42輯刊行、11名300首B5版42頁。代表片山田佳子氏。

【但馬】10月5日、朝来公民館と和田山公民館にて「朝来市文学の集い」プレイベント。▼10月6日、富山県高岡市「第36回全国万葉短歌大会」にて西村徹氏(心の花)万葉大賞受賞。▼10月31日、11月1日「みなと悠々」にて但丹歌人会「秋の大会」開催。講師衣川由弥子氏「思い出の豊岡の歌人」。

▼11月6日、朝来市大蔵市民會館にて竹柏会「心の花」主催「じろはつたんの里」歌會。▼11月19日、豊岡市但馬文教府にて「但馬文学のつどい」。

(足立勝蔵)

出席者永田和宏、宇多喜代子氏他406名。▼7月3日三木市中央公民館にて第59回北播短歌大会開催。応募数一般の部304首、特選栗畑淑子氏(西脇市)他。学生の部入選芝崎栄喜さん(中吉川小六年)他55名。出席者三木市副市長北井信一郎氏他175名。▼9月10日、小野市中央公民館にて小野市文化祭芸部短歌大会開催。応募数67首。市長賞金川千鶴子氏(加東市)。出席者小野市教育委員會いきいき社会創造課長松本英人氏他20名。

受贈歌集・歌書(兵庫県内カ)

☆『遺伝子の舟』

3月 森垣 岳
現代短歌社

遺伝子の舟と呼ばれし肉体を今日も
日暮れて湯船に浸す

☆『ぬるく匂へる』

4月 廣庭由利子
短歌研究社

喜びと気落ちはかはりがはりに来
うそうそ時のふいの空腹

☆合同歌集『どるふいん』第17号

4月 4月 4月 4月
どるふいん短歌同好会
八社めぐりの神戸の街に巻き戻す少
女時代のごんたくれ我

☆『佐夜の鄙歌』

6月 西尾美代子
ながらみ書房
安藤直彦

童胆は平釜ひらかに添へてあるものを挿し
のべてほそく鮎あなごほぐす指

☆『ともしび』

7月 明石短歌会作品集
砂時計を逆さにするよう戻りたい
十五の頃へ息子居し日へ

☆『木橋のむこう』

8月 井口和榮
平林千鶴子
角川書店

来し方よりも行く手の深き緑陰はわ
ずか撓める木橋のむこう

☆『うはの空』

8月 西橋美保
六花書林

2016年度第2回幹事会議報告

10月12日、神戸市役所1号館21階会議室
司会(公財)兵庫県芸術文化協会丸敦子氏
各代表の挨拶に続き兵庫短歌祭の議長に藤岡成子氏
◇ふれあいの祭典兵庫短歌祭実行委員会
(公財)兵庫県芸術文化協会より2名。兵庫短歌祭開催地神戸
市より4名、兵庫幹事クラブ幹事26名出席。委任状→25名
・2016年度ふれあいの祭典 兵庫短歌祭作品審査
一般部門(応募総数395首)
ジュニア部門 38校(中学校29校、高等学校9校)、応募総
数534首
入賞者決定

◇幹事会

・兵庫短歌祭 11月12日(土) 13:00~16:30
神戸市勤労会館大ホール
実施要領検討 式次第・主催者挨拶・表彰式選考経過報告
作品講評 一般の部(浮田伸子・高井忠明・山中洋子各氏)
ジュニアの部 桂保子氏
・「現代歌合せ一歌の読みをめぐる一」
(判者)吉川宏志氏
(歌びと)楠 誓英・廣庭由利子・藤本朋世・宮城十子各氏
(司会)尾崎まゆみ氏
・60周年記念行事について
幹事各位には周りの人たちへの参加、誘い合わせの協力要請
があった

歌人クラブ創立60周年記念祝賀会のお誘い

先輩方への感謝と、今後のますますの発展を祈念し祝賀会を開催いた
します。

多数の皆様のご出席をお待ちしています。

- 日時 平成29年1月15日(日) 正午(受付11時)
- 場所 神戸ポートピアホテル トパーズの間 TEL.(078)302-1111
J R三宮駅東ミント神戸 シャトルバス毎時0.20.40分発
- 会費 12,000円
- 申し込み先 歌人クラブ事務局 三津野幸代 Tel.(078)431-8665

受贈歌誌・会報等

印南野文華・海市・花鏡・薫風・幻桃・コスモス姫路・五月風(芦
屋水甕)・白珠・象・丹生・但丹歌人・綱手・茅花・津布良・童嶺・
鳶が城便り・とべら・白圭・ひめぢ水甕・ふれあい・文学圏・ポト
ナム・山の辺・夢・糸ちうど・旅笛・礫・六甲・『ふあうすと』ふあ
うすと川柳社・「石川県歌人」石川県歌人協会・大阪歌人クラブ会
報・大分県歌人クラブ会報・熊本県歌人協会会報・「短歌 堺」堺
歌人クラブ会報・新潟県歌人クラブ会報・西宮歌人協会会報・
京都歌人協会会報・「サキクサ」・「きのくに」和歌山県歌人ク
ラブ会報・埼玉歌人・姫路歌人クラブ会報・日本歌人クラブ「風」・
短歌総合新聞「梧葉」・詩と連句「おたくさ」(おたくさの会)

◇余滴◇

今号も皆様のお力を得て発行できま
した。60周年記念祝賀会の成功を切に
願っています。
(森嶋郁子)

ポトナム叢書

☆『うたがたり』

11月 小谷博泰
いりの舎

夜よの雲ながれるはやしらみな振り
落とされむこの地球から

☆『給水塔』第四十二輯

11月 代表 東浦短歌会
片山田佳子

春まひる小便小僧のしょうべんの音
を聞きつつベンチに眠る

☆『窓に寄る』

10月 中野昭子
角川平成歌人双書
来田 務

清流の上に出でたる沈下橋青菜を積
みてトラックが行く

☆『遠砧』

9月 三木雅子
角川書店

絡むだけ蔦からませて立つ樟は男の
なかの輝く男

☆『存在理由』

9月 土居 正
北羊館

生きてゐるときから死者のやうだつ
た死んでも生きてゐるやうなひと